

[成果情報名]富士北麓地域における据え置き株を活用した新テッポウユリの新作型

[要約]富士北麓地域において新テッポウユリの露地据え置き栽培により1年目～3年目まで需要期に合わせた出荷ができる。据え置き株に適した品種は5品種あり、出荷期は品種により異なる。株養成のため、切り下長30cmとし、据え置き2年目以降からはロング70日とLPS120を追肥する。

[担当]山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・岳麓試験地 志村貴大

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年の切り花需要増加の反面、富士北麓では高齢化等の影響により生産量が減少し、直売所では地元産が不足している状況にある。また、従来の切り花栽培では、施設化や種苗更新の負担が大きく新たに取り組む生産者がいない。本試験では、新テッポウユリのうち高標高でも露地栽培が可能な品種を選定するとともに、一度収穫した株を据え置きし、需要期に収穫ができる地域に合った新作型を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 新作型では露地栽培で需要期に合わせて3年間の据え置き栽培が可能である(図1)。
2. 「ジュリアス」と「さきがけ雷山」は、1年目に9月彼岸出荷、2年目と3年目に7月盆出荷が可能である(表1)。
3. 「雷山1号」、「オーガスタ」、「雷山セレクト」は、1年目に9月彼岸出荷、2年目と3年目に8月盆出荷が可能である(表1)。
4. 基肥は $N-P_2O_5-K_2O=15-15-15$ (kg/10a) をマルチ内施肥する。2年目及び3年目の追肥は株あたりロング70、2gとLPS120、1gを4月に株元施用する(表2)。
5. 株養成のため、採花は切り下長30cmとする(表3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本試験は、標高820mで行った結果である。
2. 株間15cmの5条マルチを使用する。
3. 葉枯病に注意して薬剤の定期散布をするとともに、アブラムシの防除も行う。
4. 株養成を行うため、採花後も必要に応じて、防除を行う。
5. 基肥は、溶出期間の長い肥効調節型肥料を用いる。

[期待される効果]

1. 必要最低限の投資にて栽培ができ、新規参入者や高齢者、複合経営生産者の導入が可能となる。
2. 新作型により需要期出荷が可能になり、経営の安定化が図られる。

[具体的データ]

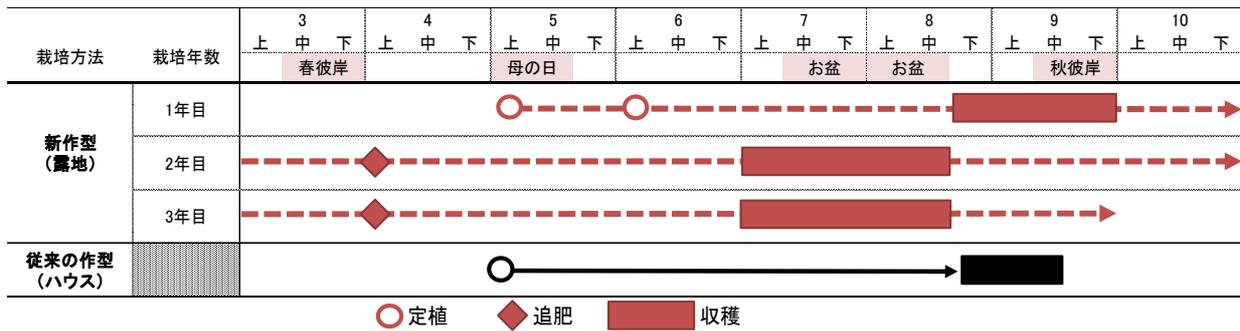


図1 据え置き株を活用した新テッポウユリの新作型

表1 各品種の採花時期と年次別の品質

品種名	1年目		2年目		3年目						
	採花期間 (採花ピーク)	採花本数 /m ²	採花期間 (採花ピーク)	採花本数 /m ²	採花期間 (採花ピーク)	採花率	落ち株率	草丈 cm	輪数 個	採花本数 /m ²	品質評価 (花質)
さきがけ雷山	8/20 ~ 9/30 (8月下旬)	35.2	7/13 ~ 8/8 (7月中下旬)	64.0	7/14 ~ 8/16 (7月下旬)	80.7	7.0	116.9	1.6	58.7	○
ジュリアス	8/16 ~ 10/5 (8月下旬)	33.1	7/6 ~ 7/26 (7月上中旬)	77.3	7/2 ~ 8/1 (7月中旬)	81.0	4.1	101.6	2.0	72.0	○
雷山1号	9/1 ~ 10/21 (9月中下旬)	25.6	7/19 ~ 8/28 (8月上旬)	56.0	7/19 ~ 8/14 (8月上旬)	75.6	8.2	119.2	1.4	69.3	◎
オーガスタ	8/30 ~ 10/5 (9月上中旬)	30.9	7/31 ~ 8/19 (8月上中旬)	50.7	7/24 ~ 8/19 (8月上旬)	80.7	2.5	122.3	2.5	50.7	◎
雷山2号セレクト	8/31 ~ 10/19 (9月上中旬)	23.5	7/13 ~ 8/12 (8月上旬)	48.0	7/20 ~ 8/30 (8月上旬)	75.6	3.0	126.0	1.8	53.3	○

注1) 栽植本数は、26.7本/m²

注2) 供試品種は、10品種

表2 据え置き株への追肥の違いによる品質への影響

施肥	草丈 cm	採花率 %	落ち株率 %	輪数 個	採花本数 本/m ²
無施肥	77	63.2	11.2	1.0	42.9
ロング70日 2g/株	105	78.4	3.8	1.5	49.2
ロング100日 2g/株	114	78.4	6.0	1.6	50.8
ロング70日 2g/株 +LPS120 1g/株	132	88.4	1.6	2.0	50.2
CDU 2g/株	120	82.8	5.2	1.9	53.3

注1) 平成27年4月30日と平成28年4月8日に株元施用した。

注2) 値は全試験品種における平均値

注3) 据え置き3年目のデータから算出

注4) 栽植本数は、26.7本/m²

表3 切り下長の違いによる品質への影響

切り下長	草丈 cm	採花率 %	落ち株率 %	輪数 個	採花本数 本/m ²
30cm	126	85.0	4.1	2.1	62.5
15cm	109	78.2	5.5	1.6	49.3

注1) 値は全比較品種における平均値

注2) 据え置き3年目のデータから算出

注3) 栽植本数は、26.7本/m²

[その他]

研究課題名：富士北麓地域における据え置き株を活用した切り花の新作型開発

予算区分：県単

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：志村貴大、渡辺淳